

2007.3.25

日本発達心理学会「発達障害」分科会 2006 年度活動報告(案)

(会員数、253名、2007年3月現在；2006年度・新入会員8名、退会者3名)

1. 役割分担 (敬称略) 、() は規約上の名称

<役員>

◇世話人(幹事) 秦野悦子、本郷一夫、金谷京子、長崎 勤、井上雅彦、佐竹真次、常田秀子、中村 晋、糠野亜紀、川田 学、鈴木智子、高橋千枝、藤野 博、澤江幸則、河合真紀子、森 正樹、亀田良一

◇代表(会長) 長崎 勤

◇会計 河合真紀子

<事務局関連>

◇会計補佐 岸本美紀・家山華子

◇会計監査 塚田みちる

◇事務局 三津本厚子、齋典子、仲野真史、平野はるな、吉井勘人、小野里美帆

◇名簿作成 三津本厚子、平野はるな

◇書記 川田 学

<広報関連>

◇分科会 News letter 編集委員会(原稿収集、編集、送付) 川田 学、鈴木智子、高橋千枝
澤江幸則

◇文献情報 川田 学

◇メール(ホームページ)への情報掲載 常田秀子

◇シンポ・ラウンド企画 金谷京子

<例会・サマーワークショップ関連>

◇例会手続き(部屋予約、機材準備) 吉井勘人

◇日本臨床発達心理士 研修ポイント対象の申請 藤野 博

◇2006年度夏合宿幹事 長崎 勤・亀田良一

2. 活動報告

1) 年間テーマ:

発達障害を根本的に考えるための「基礎研究」と、臨床現場をサポートする「実践研究」の2本立てで年間テーマを進める。

①基礎研究: 「社会性(sociability)」とは何か?

臨床・教育現場で今、「社会性」のアセスメントと支援が求められているが、今までの研究はそれぞの研究者が自分の好みの「社会性(例えば向社会性、自己制御など)」に焦点を当てて研究を行ってきており、子どもの「社会性」がそもそもどの範囲をいつの間にかについて、述べられたものはほとんど無い。発達障害分科会は臨床的・教育的アセスメント・支援を射程に入れながらも、そもそも何を持って社会性というのか、また社会性発達のメカニズムについて基本的な問い合わせを提起し、子どもの社会性を包括的に捉える観点と方法を模索したい。

②実践研究: 保育・教育の場での「巡回相談」の方法論の検討と、その妥当性の検討
発達障害分科会は、2004, 2005年度にわたり『「集団」における「個」の発達アセスメント / 「集団」そのものの発達アセスメント』の可能性と課題について検討を行い、その成果を基に2005年度は「巡回相談ガイドライン試案」を作成し、臨床現場での適用を始めている。2006年度は巡回相談ガイドラインを保育臨床場面で適応し、その方法論的な精緻化と妥当性を更に検討する。

2)総会

日時：2006年3月20日（月）

場所：九州大学

議題：活動報告・活動予定承認、決算・予算案承認

3)学会活動

(1)日本発達心理学会第17回大会 「発達障害」分科会企画自主シンポジウム

日時：2006年3月21日（火） 15:00～17:00 九州大学 103 講義室

タイトル：特別支援教育における巡回相談ガイドライン試案

——保育の場における巡回相談——

企画代表：金谷京子（聖学院大学）

司会者：佐竹真次（山形県立保健医療大学）

話題提供者：秦野悦子（白百合女子大学）

本郷一夫（東北大学）

金谷京子（聖学院大学）

指定討論者：山崎 晃（広島大学）

(2)日本特殊教育学会第45回大会 「発達障害」分科会企画自主シンポジウム

日時：2006年9月18日 群馬大学

テーマ：生涯発達支援としての巡回相談の役割と課題

司会者：金谷 京子（聖学院大学）

話題提供者：森 正樹（埼玉純真女子短期大学）

三原 富士子（埼玉県立騎西養護学校）

小林 英二（野木町教育委員会）

指定討論者：石川 由美子（宇都宮短期大学）

4)分科会例会

(1)6月例会

テーマ：子どもの「社会性」への包括的アプローチ

コーディネーター：長崎 勤

日時：2006年6月25日（日） 14時00分から17時00分

場所：筑波大学・附属大塚養護学校

<プログラム>

問題提起：長崎 勤（筑波大学）「社会性発達」を捉える観点

研究発表：鈴木智子（純真女子短期大学）「自己制御と要求行動の発達的関連性」

指定討論：亀田良一（昭和村立南小学校）

(2)12月例会

テーマ：特別支援教育における巡回相談員に求められる支援技術の検討

—「地域」と「組織」をキーワードにして—

日時：2006年12月3日（日） 午後2:00～5:00

場所：筑波大学・附属大塚養護学校（研修室） 東京都文京区春日1丁目5番5号

コーディネーター：森正樹（埼玉純真女子短期大学）

<プログラム>

話題提供1：森 正樹（埼玉純真女子短期大学）「巡回相談員が陥りやすい失敗・巻き込まれやすいトラブルに学ぶ」

話題提供2：三原富士子（埼玉県立騎西養護学校特別支援コーディネーター）「組織の

支援機能と地域の支援ネットワークの拡大を目指して」

5)2006 年度サマーワークショップ（臨床発達心理士会栃木支部共催）

テーマ：特別支援教育における「生涯発達支援」はどうすれば実現可能か？

日時：2006 年 8 月 26 日（土）15:00～27 日（日）12:00 まで

場所：栃木県那須湯元温泉（新那須温泉）「那須オオシマフォーラム」

プログラム・コーディネータ：長崎勤・亀田良一・久家康雄

会場・コーディネータ：・久家康雄（臨床発達心理士会栃木支部）

<プログラム>

8 月 26 日（土）

【セッション 1】4:00～5:30

話題提供：亀田良一（昭和村立南小学校）「学齢前期から思春期へ」

指定討論：金谷京子（聖学院大学）

【研究紹介】5:30～6:00

吉田邦子（大田原市立西原小学校）

野本有紀（筑波大学大学院教育研究科）

【セッション 2】7:00～9:30

話題提供：森 正樹（純真女子短期大学）「幼児期から学齢期へ」

指定討論：澤江幸則（文京学院大学）

8 月 27 日（日）

【セッション 3】9:00～12:00

話題提供 1：野口昌宏（作新学院高校）

話題提供 2：鈴木美枝子（筑波大学附属久里浜養護学校）「学齢から就労へ」

指定討論：秦野悦子（白百合女子大学）

中村晋（筑波大学附属大塚養護学校）

まとめと討論：長崎勤（筑波大学人間総合科学研究科）

6)ニュースレター

51 号のみ全員に郵送、以降はメール版と郵送

①06 年 5 月号：（第 51 号）総会報告（活動計画）学会報告、6 月例会案内

*会計報告、年会費振込用紙、名簿同封

② 7 月号：（第 52 号：メール）サマーワークショップ案内

③ 10 月号：（第 53 号：メール）12 月例会案内

④06 年 3 月号：（第 54 号）総会案内、例会報告、次年度へ向けて

日本発達心理学会「発達障害」分科会 2007 年度活動計画(案)

1. 役割分担 (敬称略) 、 () は規約上の名称

<役員>

◇世話人(幹事) 秦野悦子、本郷一夫、金谷京子、長崎 勤、井上雅彦、佐竹真次、常田秀子、中村 晋、糠野亜紀、川田 学、鈴木智子、高橋千枝、藤野 博、澤江幸則、河合真紀子、森 正樹、亀田良一

◇代表(会長) 長崎 勤

◇会計 河合真紀子

<事務局関連> (_____ : 新規)

◇会計補佐 岸本美紀・家山華子

◇会計監査 吉井勘人

◇事務局 三津本厚子、本池麻利、仲野真史、野本有紀、平野はるな

◇名簿作成 三津本厚子、本池麻利

◇書記 川田 学

<広報関連>

◇分科会 News letter 編集委員会 (原稿収集、編集、送付) 川田 学、鈴木智子、高橋千枝
澤江幸則

◇文献情報 川田 学

◇メール (ホームページ) への情報掲載 常田秀子

◇シンポ・ラウンド企画 金谷京子

<例会・サマーワークショップ関連>

◇例会手続き (部屋予約、機材準備) 吉井勘人

◇日本臨床発達心理士 研修ポイント対象の申請 藤野 博

◇2007 年度夏合宿幹事 亀田良一

2. 活動計画

1)年間テーマ

①基礎研究：「社会性(sociability)」とは何か？

②実践研究：保育・教育の場での「巡回相談」の方法論の検討と、その妥当性の検討

2)総会

日時：2007年3月25日(日)

場所：大宮ソニックスティー

議題：活動報告・活動予定承認、決算・予算案承認

3)学会

(1) 第 18 回日本発達心理学会ラウンドテーブル

日時：2007年3月26日

タイトル：特別なニーズのある人における生涯発達支援に求められる枠組み
－幼児期から学童期への移行支援実践をもとに－

企画者：発達障害分科会

亀田良一 (昭和村立南小学校)

森 正樹 (埼玉純真女子短期大学こども学科)

澤江幸則 (筑波大学人間総合科学研究科)

ファシリテーター：森 正樹 (埼玉純真女子短期大学こども学科)

話題提供： 柄田 毅 (文京学院大学人間学部)

亀田良一（昭和村立南小学校）
石川祐子（障害児地域訓練会ペンギンクラブ保護者）#

(2)特殊教育学会

未定

締め切り：5月14日(月)

3)例会

(1)6月例会

日時：2007年7月1日（土） 14時00分から17時00分

場所：筑波大学東京キャンパス（予定）

テーマ：言語発達研究の最新動向：使用基盤モデルの理論的背景と諸研究

コーディネーター・司会：長崎 勤（筑波大学）

話題提供：森川尋美（カンザス大学）

指定討論：未定

(2)12月例会

テーマ：保育の場における巡回相談（予定）

日時：12月3日（土）14:00～

場所：筑波大学東京キャンパス（予定）

コーディネーター：金谷京子

司会：未定

話題提供：未定

4)2007年度サマーワークショップ（臨床発達心理士会群馬支部共催）

テーマ：特別支援教育における「生涯発達支援」はどうすれば実現可能か？（Ⅱ）（仮）

日時：2007年9月1日（土）、2日（日）

場所：〒379-1617 群馬県利根郡みなかみ町湯原684 公立学校共済組合／水上保養所
「去来荘」

TEL..0278-72-6311

プログラム・コーディネータ：亀田良一・長崎勤

会場・コーディネータ：・亀田良一・臨床発達心理士会群馬支部

5)ニュースレター

55号のみ全員に郵送、以降はメール版と郵送

①07年5月号：（第55号）総会報告（活動計画）学会報告、6月例会案内

*会計報告、年会費振込用紙、名簿同封

② 7月号：（第56号：メール）サマーワークショップ案内

③ 10月号：（第57号：メール）11月例会案内

④08年3月号：（第58号）総会案内、例会報告、次年度へ向けて

日本発達心理学会「発達障害」分科会規定

第1条(名称)

本会は日本発達心理学会「発達障害」分科会と称する。

第2条(事務局)

本会は、事務局を当分の間、以下の場所に置く。

〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1

筑波大学・人間総合科学研究所（心身障害学系）長崎勤研究室

第3条(目的)

本会は日本発達心理学会との密接な連携の下に、発達障害に関心を有する会員相互の交流と研修を促進することを通して、日本における発達障害研究の向上をはかることを目的とする。

第4条(事業)

本会は前条の目的を達成するために次のことを行う。

- 1) 例会の開催。
- 2) シンポジウム・ラウンドテーブルの開催。
- 3) 分科会ニュースレターの発行。
- 4) その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第5条(会員)

発達障害に関心を有する者で、設立趣旨に賛同し本会規定を遵守する者は幹事会の議をもって会員となることができる。

第6条(役員)

本会には次の役員をおく。

- 1) 会長 1名
- 2) 幹事若干名
- 3) 会計 1名

第7条(幹事会)

幹事会は幹事をもって構成し、会の運営に当たる。

第8条(会長)

会長は本会を代表し、会務を統括する。会長は幹事の中から互選により選出する。

第9条(幹事)

幹事は会員の互選によって選出する。

第10条(会計)

会計は本会収支に関する業務をつかさどる。会計は会員の互選によって選出する。

第11条(任期)

役員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第12条(会費)

本会の運営のために、本会の主催する事業に参加する会員に対して年会費1,200円を徴収する。

第13条(運営費)

本会の運営は、徴収した会費と日本発達心理学会からの補助金によってまかなわれる。

第14条(年次総会)

日本発達心理学会大会開催中、またはその前後に年次総会を開き、年間活動計画の策定など分科会活動に必要な事項を審議する。

第15条(事業年度)

本会の事業年度は1月1日から翌年の12月31日までとする。

第16条(規定の改正)

本会の規定を改正する場合には、幹事会の審議を経た後、総会出席者の半数以上の承認を受けることとする。賛否同数の場合は、会長がそれを決する。

付則 本規定は2005年1月1日から発効する。

